「日々の理科」（第 2071 号）　2020,-3,11

「チンゲンサイの菜の花（１）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

「教材研究」というのは、教師の日常生活の中からヒントを得られることが多い。日常生活の中で、普通のものを教材化する営みとも言える。「普通のもの」とは「本来は教材としての価値はないもの」という意味だ。そこに「授業で使える価値を見つけ出す」ことが教材研究の極意だと思っている。

自宅から徒歩数分のところにある、小石川四丁目の八百屋さんだ。八百屋さんは理科の教材研究をするのに、最適な場所である。「レタスの気孔の観察」のアイデアも八百屋さんで買い物をしている間に練られていった。

このお店はもともと野菜が安いが、今は学校給食の中止で、葉もの野菜が特に安い。この葉レタスも２把で 88 円と、申し訳ないほど安かった。

そのお店で「ちんげん菜ばな」という、あまり見かけない葉野菜を売っていた。これも２把で 78 円の激安。和え物に良さそうなので、思わずカゴに入れてしまった。これは名の通りチンゲンサイ（青梗菜）の菜花である。以前は茎がたったチンゲンサイはあまり流通していなかったが、茨城の JA なめかた（銚子市の北のほう）が販売開始し、意外と好評らしい。

さっと湯がいて冷水に遠し、適当に切って「めんつゆ＋マヨネーズ」で和えると、さっぱりしておいしい。茎もやわらかく、アスパラガスのような食感だった。

よく見ると、葉の間に花のつぼみが見える。ここで「教材研究」のスイッチが ON になった。